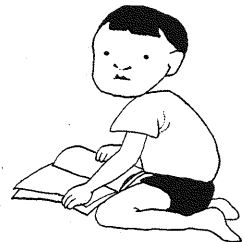


# 読書・無限に広がる

## 想像の世界がそこに……

安西 三恵



### 現代の読書事情

気がつくと「本を読む」、から随分遠のいてしまった自分に驚きます。幼い頃、読書大好き少女だったのに……。何故かなと考えると、もちろん大人になり日常に追われ時間がないこともあるのでしょう。でもそれだけではなく「読む」ことから遠

ざかる要因が多い今日の現実なのかもしれません。視覚的に知識が入ってくるが多くなり、それに慣れた現代人にとって、じっくり読書などといった「読む」ということが、極端に言えば、非合理的趣向となってしまうのかもしれない。それは大人だけでなく、習い事に追われる子どもたちにも残念ながら影響している気がします。

## 本を読むこと、想像すること

私は七人姉弟の三番目、親から目が届くような届かないような微妙なところをいいことにのびのびとした幼児期を過ごしました。でも当時の母親族がそうだったように、我が家の母も大変な教育ママでいつも勉強！ 勉強！ そんな母が姉の勉強のために買った『少年少女世界名作全集』が私の読書三昧の始まりなのは、今考えるとおかしなことです。幼児期のイソップ、グリム、アンデルセンに始まった本読みが、昨日はフランス編の「三銃士」、今日はイギリス編の「八十日間世界一周」、…中国編の「大地」…と。夢中で読んだ本で世界を旅し、その想像の世界にはまった私は、小学生時代に読むべきとされた本をほとんど読みあさりしました。毎日頭の中のホームシアターで自分だけの世界を楽しんでいました。そんな私の今でも忘れられない本が『ああ無常』です。夜、読み終えるまで寝られず、朝方ベツ

トで枕が濡れるほど泣いたのを昨日のこのように覚えています。不思議なことに、ストーリーははっきり覚えていないのに、自分が受けた衝撃とか、感情の動きは驚くほど良く覚えています。しくしくではなく、おおいと肩を震わせ咽び泣いたのです。ジャン・バルジャンがかわいそうで、かわいそうで……。

心をいっぱい震わせたこと、ポップコーン片手にはいかなけれど、頭の中のホームシアターで世界を旅し想像をふくらませたこと、今でも思い出すと心が揺れるそんな想像の世界を持てたことが、その後の私の生活で内面的に大きな影響を与えていることを私は確信しています。読んで想像する、熟慮する……といういかにも単純なことが難しくなっている現代社会です。時代の流れの中で生まれる物、消え行く物があるのはしかたがないことと言つてしまえばそれまでなのかもしれません。でも人間社会が今日まで発展してきた根本にある夢を持つ力、想

像する力、そして目的を持つ力を育む幼児期の豊かな時間の中で、是非本を読むことを忘れないで欲しいです。そのきっかけとなるどんなささやかなことでも大切に育てていって欲しいです。

### 今人気の本

最近人気の「ハリーポッター」は久々に子どもたちの間で盛んに読まれているイギリスのファンタジーの世界。昔から魔法は子どもに人気の世界です。私はメリーポピンズに憧れ、いつの日か我が家にも来てくれないかと願ったものです。子どもたちの間に広まった本を読むこの機会を次の本へとつなげていってくださることを願っています。意外なことに、この本は最近の字が少なく、絵の多い本とちがい挿絵がほとんどありません。正直、映像に慣れてしまっている今の子どもたちに絵のない本はきついです。そんな本が子どもたちに受け入れられたことはとても嬉しいです。私の読書の一番の楽しみは十

ページ以上先にある小さな挿絵を見ることで、自分が想像したものとそっくりだったりすると密かな喜びを感じたものです。これからも娯楽が一杯の今の時代の子どもを引き付けてくれる素敵な本がどんどん出てきてくれることを期待したいです。そしてそれが読書へのきっかけとなってくれたらと思っています。

### 私のデザインルーム

手芸、工芸など分野を問わず「作る」ことが大好きな私はこんな物が欲しい、こんな物を持ちたいという皆さんの物作りのお手伝いをしています。それぞれの方たちの思いを形にする時、幼い頃に読書で作った頭の中のホームシアターを今では物を作る時のデザインルームとして利用しています。そしてまた……今でも……ヘンデルとグレーテルのお菓子の家を食べてみたい！と思いい、赤毛のアンは、まさに私だ！と自分を重ねていた幼い頃の私が、

頭の中で色々な想像をめぐらし物作りをする時の私  
を手伝ってくれている気がしています。

(工房さく主宰)

# 三木成夫著 『胎児の世界』

## 第Ⅱ章より

磯貝 文男

この本『胎児の世界』（中公新書）は一九八三年  
出版で、新しいものではありません。また、その内  
容も育児書ではありません。著者・三木成夫氏は人  
ぞ知る解剖学者です。「個体発生は宗族発生（系統

発生）を繰り返す」という反復説または進化再演説  
（E・H・ヘッケル、一八六六）をご自身のしごと  
（ニワトリの胚の発生の研究）で実証され、地球の  
歴史や生物進化をふまえた比較解剖学の立場からさ

